

☆2008年12月5日発行 ☆隔月発行

☆発行／大阪大学学生部キャリア支援課

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm

☆編集／大阪大学学生部キャリア支援課

〒565-0871 吹田市山田丘1-1

2009.1.10 (土)

詳しくは5ページへ

総長ラウンド
開催決定

または

総長ラウンド

検索

THE KEY PERSON

『Kaeru 通信』発行にあたって

大和谷 厚 教授 ——— 2・3

GPとは・・・ほか ——— 4

総長ラウンド開催決定 ——— 5

「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラム

合宿研修レポート ———

1年次対象プログラム ——— 6・7

2年次対象プログラム ——— 8・9

3年次対象プログラム ——— 10・11

MESSAGE・・・ほか

関 昭裕 学生部長 ——— 12



わたしは、

みなさんがいろんなことに 楽しみながら

チャレンジする、

いい意味での「いちびり」であり続けてほしいな

と思っています。

『Kaeru 通信』発行にあたって

大阪大学学生支援G P 実施担当

大和谷 厚

医学系研究科教授

学生生活委員会委員長

「市民社会におけるリーダーシップ養成支援プログラム」冬の合宿研修から10ヶ月、夏の合宿研修から3ヶ月が過ぎました。参加いただいたみなさんはキャンパスや地域社会に帰ってからも、この合宿で得られた熱い思いを胸に大活躍されていることと思います。あの熱気を持続し、みなさん方との交流を持続するため「Kaeru 通信」を発行することにしました。その第1号をお届けします。

なぜ「**Kaeru**」なのか。これは「**帰る**」と引っかけて、合宿研修を受けたみなさんがキャンパスや地域社会に**帰**り、研修での成果や課題を**実践**し、次年度の合宿研修に**帰**り、**新**たな研鑽を積み、そして卒業後は「市民社会」に**帰**って、市民社会のコアとなる人材として活躍するという、このプログラムの狙いを表しています。だからプログラムキャラクターもカエルなのです。

このプログラムでは、「地域に生き、世界に伸びる」をモットーに、「教養・デザイン力・国際性」を教育目標とし、確かな基礎学力と専門知識をもつ「しなやかな専門家」を育成しようとしている大阪大学が、社会的教養と健全な判断力により常に広い視野の中で適切な行動を選択できる Common Sense をもち、同時に、Common Sense に適切な懐疑心をもち、常に自己を振り返り検証することのできる「阪大スタイルの市民社会のリーダー」の養成支援を目的としています。

昨年度の冬と今年度の夏に実施した合宿研修では、1年次対象に「世界と日本、そして市民としての私」をテーマに「自分を知る」ことを、2年次対象に「市民との対話と協創」をテーマに「他者を意識する」ことを、そして、3年次対象には「市民社会変革型リーダーの使命と役割」をテーマに「社会を意識する」ことを考えていただきました。そして、講師の先生方からの答えのみつからない問いかけを真摯に受け止め、真剣に議論してくれました。

アンケートでは、参加者のみなさんから講師の先生方からもプログラムへの高い評価をいただきましたが、プログラムの企画運営担当者としてはまだまだ満足していません。みなさんと一緒にこのプログラム自体をさらに一層進化させていきたいと考えていますので、ぜひ、ご意見をお寄せください。

わたしは、みなさんがいろんなことに楽しみながらチャレンジする、いい意味での「いちびり」であり続けてほしいなと思っています。このプログラムからどのような人材が巣立っていくか、10年後、20年後に期待しています。

最後になりましたが、「Kaeru 通信」の編集とキャラクターデザインは学生部キャリア支援課でこのプログラムの事務を担当し、プログラムスタート以来、裏方としてサポートしてくれている尾野さんと吉田さんのお二人が担当してくれました。厚く御礼申し上げます。

では、1月10日の「総長ラウンド」でみなさんと再会することを楽しみにしています。

o u t l i n e

GPとは・・・

各大学・短期大学・高等専門学校等（以下「大学等」とします。）が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼んでいます。これは、近年、国際機関の報告書などで「優れた取組」という意味で幅広く使われており、諸外国の大学教育改革でも注目されている言葉です。なお、この言葉を略して、「GP」と呼んでいます。（文部科学省HPより抜粋）

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」とは・・・

学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学等における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。（文部科学省HPより抜粋）

「市民社会におけるリーダーシップ養成支援～「阪大スタイル」育成プログラムの開発～」とは・・・

大阪大学は、適塾と懐徳堂を源流とし、「地域に生き、世界に伸びる」をモットーに「教養・デザイン力・国際性」を教育の基本理念とし、市民社会にロイヤリティをもち、市民社会でリーダーシップを発揮する「阪大スタイル」の人材の育成を目指しています。今回の取組は「市民社会でのリーダー」養成を目指し、まずはクラスやサークルのリーダーとなる学生を重点的に支援し育成し、この学生が核となり支援の輪が連鎖上に広がることにより、学生全体の意識の向上とレベルアップを図るためのプログラムを開発し実施します。このプログラムの実施は学生部学生支援課及びキャリア支援課の事務職員が主体となって担当し、大学教育実践センターやコミュニケーションデザイン・センターの教員が協力しています。また、プログラム開発には人材開発で実績のある民間コンサルティング企業のノウハウを利用しています。

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム

市民社会における リーダーシップ養成支援

市民社会における
リーダーシップ養成
プログラムとは？

「阪大スタイル」をもとに、市民と共に歩む次代のリーダー育成プログラム。
常識を持ち、社会における組織のあり方を理解し、望ましい方向に引っ張っ
ていける対話力・企画力・構想力を持った人を育成していく。

大阪大学の教育目標

国際性
異文化共生能力の育成

**基礎学力
専門知識**

教養
社会的教養・判断力の育成

デザイン力
自由な構想力と表現力の育成

これまでの取り組み

2004	2005	2006	2007
大学教育実践センター	コミュニケーションデザインセンター	学際融合教育研究プラットフォーム	グローバルコラボレーションセンター

大阪大学の学生支援の基本理念

学生を信頼して、自主性を重んじるとともに、責任自覚型教育の中でパートナーシップを高める。

プログラム概要

参加者 - 対象：大学1年生～4年生 - 人数：各学年50名以下 - 募集方法：公募による選定	実施体制 - 主体：学生部キャリア支援課 - 協力：学内教育組織、民間コンサルティング企業 - その他：学生メンター
---	--

特徴

- クラスやサークルで核となりうる学生をリーダーとして養成
これまでの全員参加型のもではなく、参加意欲の高い自主的な学生を支援する
- 気付き型、実践型の参加者主導の対話型プログラム
一方的な知識伝達型の研修ではなく、参加者同士の議論を通じて、個々人の気づきを創出する
- メンター制度の構築
学生のメンターを育成することにより、フォロー体制を構築する
- 学生部事務職員の積極的関与
事務職員が学生支援の主体としてコミットする
- 学内および企業の専門知を動員したプログラム開発・運営
専門知により、4ヵ年計画によって常にプログラムのブラッシュアップをしていく

各学年テーマ

1年生 世界と日本 そして市民としての私 対話型授業の基礎固め 学生生活に必要となる基礎力	2年生 市民との対話と協創 対話型授業の発展 リーダーとしての役割	3年生 市民社会変革型 リーダーの使命と役割 対話型授業の応用 リーダーとしての実践力	4年生 メンター育成のための アクティブリスニング スキルの習得 対話型授業の応用 リーダーとしての実践力
---	--	---	--

全体スケジュール

QUDSL = Osaka University Development Seminar for Leaders

	春(4月～6月)	夏(7月～9月)	秋(10月～12月)	冬(1月～3月)
1年生		第1回 QUDSL	リーダーとしてのモチベーションが向上しクラスやサークルでの活動が活発化	
2年生	新入生を迎えて活動	第2回 QUDSL	サークルでは次年度リーダーの決定	第3回 QUDSL
3年生		第4回 QUDSL		第5回 QUDSL
リーダー活動のカウンセリング				
4年生	代表を引継	研修のアシスタントとして、自らの経験を学生に還元する		

期待される効果

- デザイン力を持った人材の育成**
リーダーとして必要な考え方や技術を修得する機会を提供し、実践する、そして振り返りを行うサイクルを作ること、実践的なデザイン力を高めていく。
- クラスやサークルの活性化と活動内容の質の向上**
学生リーダーを強化することで、各々の所属組織であるクラスやサークルのメンバーへの影響を与え、学生組織全体の活性化と活動内容全体の質の向上につながる。

大阪大学 学生支援GP

総長ラウンド開催決定

総長と「阪大スタイル」について考えてみませんか？

総長ラウンドへ行かなくっちゃ！



日時 **2009年1月10日（土） 10:00～16:00**

場所 **大阪大学イ号館イ講堂**（大学教育実践センター）

内容 **10:00～14:00** 合宿研修参加後の活動を通じて、
未来の「阪大スタイル」について考える（グループワーク）
14:00～16:00 総長ラウンド（プレゼンテーション、ディスカッション）

対象 学部学生

締切 **2008年12月24日（水）まで延長決定**

申込方法 大阪大学 学生支援GPのウェブサイト

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm の

行事予定ページから参加申込書をダウンロードし記入の上、

gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp へメールにて送信してください。

※メール送信できない場合は、各学生センター キャリア支援課までご持参ください。

その他 昼食を準備します。当日昼食代 350 円（予定）をご用意ください。

キャンセルはできませんのでご注意ください。

問合せ先 吹田学生センター キャリア支援課 TEL：06-6879-7087



1 年次対象プログラム

○実施日時 9月17日（水）～9月20日（土）
○学生参加人数 28人
○場所 VIP アルバインローズ・ビレッジ（兵庫県篠山市）

プログラムテーマ

「世界と日本、そして市民としての私（取り巻く環境の課題認識と世界と自己との関係性の構築）」
1年次ということから、まずは現状「課題認識」とそれらとどのように関わってゆくのか「関係性の構築」をテーマとしています。

第1日目9月17日（水）

オリエンテーション 大和谷 厚 教授・学生部

学生部キャリア支援課の松本課長が開会の言葉と事務連絡、4日間の実施スケジュール、スタッフ紹介を行いました。また、大和谷先生が今回のプログラムの実施背景、目的、今後の取組などを説明し、大学が提供するしっかりとしたプログラムであることを伝えました。



自己紹介ワーク 株式会社リンクアンドモチベーション

紙に自分自身を表現し、それを使って自己紹介をしました。初めて顔を合わせる参加者同士の交流を図りました。

チームビルディング 株式会社リンクアンドモチベーション

☆ピクチャークイズ
6枚の異なる絵を使って、各人が自分だけ知る情報を口頭で共有します。最終的な答えは、6枚の絵につながりがあることを見出し、絵をつなげた先にあるゴールを見つけることです。ここでは、「相手の前提と、自分の前提は異なること」、「伝えることは伝わること」という相互のコミュニケーションにおいて意識すべき観点を示しています。また、今後グループワークを進める上でベースとなる「基本作法の6ヶ条」というナレッジを学びました。



☆未来番組を報道せよ！
10年後の未来を見据え、今後どのような世界になっていくのかをテレビの特集番組を提案する設定で考え、実演するワークを実施しました。正解はなく、各グループの伝えたいことをプレゼンテーションしました。ここでは「フェルミ推定（仮説思考）」「考えるための5つの技術」などの議論を進めるスキルの解説がありました。答えがなくても意志を持って推し進めることの重要性を伝えました。

哲学カフェ - 対話の場のデザイン 本間 直樹 准教授



対話の基本である「問うこと」と「答えること」について体験しました。また、「なぜ人は一番になりたいのか？」など人間に対して沸きあがる疑問や主張そのものを抽出し、グループディスカッションを実施しました。ここでは対話が「質問役」と「答える役」だけでなく「聞き手」の3役で成り立つことを伝えました。また、最後にパリにある哲学カフェの様子も紹介し、人と人とのコミュニケーションを実現させる場として、どのようなカフェが考えられるかを議論しました。

第2日目9月18日（木）

災害ボランティア活動の最先端から 渥美 公秀 准教授

渥美先生自身の阪神・淡路大震災での経験や、新潟の震災で活動している学生ボランティアについて、映像を交えながら説明がありました。震災現場でボランティアが出来ることは何なのかを考えました。『効率』ではなく、ひとりひとりに対する心のケア、コミュニケーションこそが大事なことであったと伝えました。学生は、自分たちだったらどのようなボランティアをするのか、すべきかを考えました。



言葉のしくみ 井元 秀剛 准教授



「ことば」を題材にして、考える訓練をしました。「鏡に自分の体を映すと、右と左が逆に映ります。でも、どうして上と下は逆にならないのでしょうか。その理由を考えてください。」という課題をグループディスカッションしました。各グループの議論の結果を元に、質疑応答、ディスカッションを行いました。普段何気なく使っている「ことば」に対して、概念や切り口を捉えなおし、「漏れているものを拾い上げていく」言語学の役割や、また人との対話において介在する「ことば」を見つめる面白さを伝えました。

共通教育を考える - 新生大阪大学・第1期生が考える共通教育の新たなステージ 工藤 真由美 教授



大阪大学が掲げる教育目標や、魅力ある共通教育を実現させていくための試みを紹介し、新生・大阪大学の第一期生である参加者が共通教育の新たなステージ、あり方を考えました。ここでは、共通教育の新たなステージを切り開くためには、学生自身の参画が重要であり、主体的に考えて取り組む姿勢が必要であると

伝えました。

ケアについて考える 西村 ユミ 准教授

植物状態で生活している人と、その周囲で支えている人との関係について、実際の映像を交えながら、「人間として生きるということとはどのようなことなのか」「どのように生きたいということなのか」といった議題について、グループディスカッションを行いました。ここでは、普段当たり前に捉えているコミュニケーションは相手がいることが前提であり、お互いが異なる立場であることを理解して、どう働きかけるべきなのかを考え、本質について学びました。



第3日目9月19日（金）

小氷期のリーダーシップ 大垣 一成 教授



地球レベルの環境問題に関連して、14世紀から18世紀を見つめ、現在の地球温暖化問題とエネルギー資源問題へと展開する歴史のレクチャーを受けました。産業革命以降に発生させた二酸化炭素を「どのレベル」まで「どのくらいの時間」をかけて削減するのがよいか、グループディスカッションをしました。ここでは、地球規模で起こっていた問題に対して、政治や経済、科学・技術・医学・文学・芸術など各方面のリーダーがどのように捉え、どのように行動していたのかを再度考えました。

コミュニケーションワークショップ 平田 オリザ 教授

このワークショップでは身体を使ったコミュニケーションをしたり、キャッチボール、大縄跳びを演劇で再現しました。実際に身体を動かし体感することでイメージやコンテクストを共有することが重要であると学びました。価値観が多様化する中で、大事なものは協調性ではなく社交性であり、いかに相手とコラボレーションしていくかが重要であると学びました。



国際社会への視点 小泉 潤二 副学長

グアテマラに関する映像を次のように3本紹介しました。1本目は現地の人が作った海外観光客向けのグアテマラ紹介VTR、2本目は南米のフィールドワークをしている学者が撮ったグアテマラのドキュメンタリーVTR、3本目は日本で数年前に報道されたグアテマラで殺害された日本人観光客の事件のVTR。1つの事象に関する異なる視点のVTRを見て問題を提起し、それについてどのように受け取り手が認識するのかをディスカッションしました。ここでは、何を持って真実というのか、私達が見ているメディアはいかに1つの側面に過ぎないかに気付く機会になりました。



異分野連携 森 勇介 教授・北岡 康夫 教授・根岸 和政 特任研究員



ゴールドラッシュのビジネスから、現代のベンチャーまでの歴史、また、世界最高峰の結晶化技術を元に温暖化を止めるための試みなど、如何に学術を社会革命につなげるのかというレクチャーを受けました。また、相手の動きを真似ることで安心感、親近感を生み出すワークなどを体感することで、心理的な側面からの

コミュニケーション理論を展開しました。工学と哲学や心理学という異分野の連携を図り、様々な視点からコミュニケーションを捉え、肯定的表現や相槌という日々のコミュニケーションスキルの重要性を伝え、「リーダーとして、どうありたいか」を考えました。

第4日目9月20日（土）

総括 木川田 一榮 教授

まずはストーリーテリングをしました。今まであまり話していなかった者同士でグループを作り、この合宿でどういうことを学び、気付いたのかを3分間で語り合う。それを3回グループを変えて行いました。ここでは物語を通じて、「経験を共有」することがねらいです。同じ物語を繰り返し話すことで、よりわかりやすく話を伝えることができました。魅力的なリーダーになるためには、どのような行動をとれば良いのかアクションプランを考えました。そして、それぞれのスローガンや約束事を宣言という形で発表しました。



エンディング 株式会社リンクアンドモチベーション

4日間を通して、28名の中から4つのリーダー像に当てはまる人物を投票し、表彰しました。最後に、4日間の振り返りムービーを見て、全体のプログラムは終了となりました。

メンターからひとこと 若林可奈さん 工学部4年次



★学生支援GP「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラムに参加したきっかけを教えてください。
メンターとしての参加以前に、3年生プログラムに参加しました。その時は、「リーダーシップ養成支援」って、何をやるんだろうと思ったことと、驚田総長がいっちゃるというたい文句だったので。

★合宿研修に参加して何か変化はありましたか？
「リーダーシップ」というだけあって、私がこれまで出会ってきた人とは一味違ったメンバーと朝から晩まで議論した経験はすごく刺激的でした。みんないろいろやっているけど、自分がやりたいことをどう実現するか、と考えるときには「異分野の彼ら」と協働する、という選択肢が浮かぶようになりました。1年生プログラムにメンターとして参加したときには、1年生たちの勢いというか、熱さを分けてもらいました。

★合宿の講義・ワークショップで印象に残った講義は何ですか？
何といっても、門田副学長の「死について」です。生きること、死ぬことについて自分は深く考えようともして来なかったと気付かされました。プログラムから10か月経って、今しっかり考えられているかというところ…反省ですが。

★あなたにとっての市民社会におけるリーダーシップとは？
難しいです。難しいですが私は、みんなをぐいぐい引っ張っていく人だけがリーダーだとは思いません。GPにメンターとして参加した時、「あなたはいつにもここにしていますごくいいね」と言っていたのですが嬉しかったのですが、たとえばここにしているだけでも、周りを元気にできているとすればリーダーかなと。そして私にこんな嬉しいことを言ってくださったこの方は本当に素敵なリーダーだなと、思いました。

★学生支援GPプログラム参加後の活動内容を教えてください。
今は、卒業研究で頭がいっぱいです。建築都市計画論領域という研究室で主に計画住宅地の住環境について研究しています。日本ではオールドタウンなんて言われているニュータウンも、そこで育った人たちにとってはふるさとでありアイデンティティなんだ、という目線で、ニュータウン育ちとして、考えていきたいと思っているのですが、そこに建築工学や社会学を学んでいるわけではないけれど、自分もニュータウン育ちだ!!なんて学生を巻き込んでいけないかな、と思案中です。

★最後に一言お願いします。

計2回参加しましたが、どちらもすごく面白かったですし、先生方も面白くて素敵な方ばかりで。ただ大和谷先生もおっしゃっていましたが、ただ唯唯呑みになってしまう参加の仕方では得るものは半減するかな、と思っています。また次回、参加する機会があるならそれまでにもっともっと自分を磨いておきたいと思っています。



プログラムテーマ

「市民との対話と協創（コラボレーション技術とソーシャル・ネットワーク形成の習得）」

2年次ということで、関わっていく際に必要とされるコミュニケーション能力の中から「コラボレーション技術」と市民とのネットワーク創り「ソーシャル・ネットワーク形成」をテーマとしています。



第1日目8月27日（水）

オリエンテーション

大和谷 厚 教授・学生部

学生部キャリア支援課の松本課長が開会の言葉と事務連絡、4日間の実施スケジュール、スタッフ紹介を行いました。また、大和谷先生が今回のプログラムの実施背景、目的、今後の取組など説明を説明し、大学が提供するしっかりとしたプログラムであることを伝えました。



自己紹介ワーク

株式会社リンクアンドモチベーション

紙に自分自身を表現し、それを使って自己紹介をしました。初めて顔を合わせる参加者同士の交流を図りました。

自己とむきあう／他者とかかわる

岩下 徹 舞踊家



即興ダンスによる自己紹介を行った後、即興ダンスを極めるまでの歩みを伺いました。体をほぐして（緩めて）リラックスする動作を行い、自身が開放される感覚を実際に体感しました。自然に起こる感情に身を任せることで「自己との対話」を行い、「自分を好きになり、初めて自分を認めることができる」⇒外の世界と繋がっていくという、人とのコミュニケーションの本質にふれました。

第2日目8月28日（木）

チームビルディング

株式会社リンクアンドモチベーション

☆暗号を解読せよ！

個人が異なる情報を持ち、グループメンバーで協働して暗号を解読するものの、チームの情報だけでは解読が不可能であり、他のチームと協力しないと答えが出ない仕組みを気付かせます。目的を達成させるためには「競争」であるという固定観念の打破が大切であり、それこそが真なる「協創」だというメッセージを伝えました。また同時に他者と協働していくために重要なスタンスを説きました。

☆無人島を脱出せよ！

究極の選択を迫られる場面を想定し、個人の考えをグループで共有し、1つの意見にまとめました。正解はなく価値観の違いから衝突が生まれる仕組みになっています。ここではグループで意見をまとめるときに大事な「前提のすり合わせ」や「判断基準の統一」などを伝え、今後グループワークを進める上でベースとなるナレッジを学びました。



☆チーム名決定

メンバーの強みや特徴、共通性をグループのアイデンティティとしチーム名を決めました。



日本語の“美学”

金水 敏 教授



日本語の歴史、現代に至るまでの移り変わりの様子をレクチャーした後、英語から日本語への訳し方を通じて普段何気なく使用している日本語について考えました。また、謝礼メールを送信する設定でグループワークを行い発表し、皆でフィードバックしあうことで改めて正しい日本語のあり方を考えました。全体を

通じて、世代、性別、住む地域、シチュエーションも含めコミュニケーションの重要性を認識しました。

緩和ケアとコミュニケーション

恒藤 暁 教授

医療従事者役・患者役・オブザーバー役を決め、「生命を脅かす病気にかかっている患者や、患者の関係者とのコミュニケーション」という設定でロールプレイを行いました。死と直面した患者と向きあう医療従事者を演じ、その事実をどう受け止め、患者と信頼関係を築いていくかを体感しました。人と接する際の非言語コミュニケーションの重要性や、相互理解に欠かせない姿勢などを学びました。



交流会

各グループに分かれて参加学生・教職員等が自由なテーマで意見交換や交流を行いました。



第3日目8月29日（金）

相談・交渉を考える

大澤 恒夫 弁護士



逆腕相撲大会やお地藏さんロールプレイ（地藏相手・人間相手にロールプレイをする）を行い、話し手・聞き手の感じ方や行動の違いについて考えました。また、相談員役と相談者役を設定したロールプレイを実施し、それぞれが感じた違いについてグループでディスカッションし、プレゼンテーションを行いました。交渉

の奥深さを学び、人とのつながりや社会で共生していくために大切なこと、言葉が形づくる世界を改めて認識しました。

都市の「生命」

木多 道宏 准教授

空間造形や街を形づくっていく要素、街を取り囲む文化や民衆の思いなどについてDVDを通してレクチャーしました。街について「なぜ後世に残していくのか」「街に込める人々の想いはどこにあるのか」についてディスカッションを実施しました。文化・社会・哲学・民族などと共に現存する「街」を建築学という一面からだけではなく心理学・哲学などの様々な視点から捉え、自ら答えを探す姿勢を学びました。



ユビキタス時代の街の作り方 下條 真司 情報通信研究機構上席研究員



ユビキタス時代での産業の発展を説明した後、デジタル放送になることで生まれるメリットやデメリットをグループで考えました。その際に、国・放送局・家・広告・視聴者など様々な視点や切り口で考え発表し、質疑応答、下條氏からフィードバックを行いました。暗黙知をどのように伝えていくのか、プラットフォームリーダーシップをテーマに産業の発展に伴う人々のあり方を考えました。

障害のある人たちと共に生きる：「支援」から「支援と言わない支援」へ 松原 崇 助教

ライフイベントを追いながら、障害者として学生がロールプレイをし、必要となる支援や共生していくために必要な視点を感じました。実際に障害を持っている人に話を聞きながら、何気ない取り組みが結果的に防災意識を高める「支援と言わない支援」という捉え方、考え方を学びました。



○実施日時 8月27日（水）～8月30日（土）

○学生参加人数 19人

○場所 VIP アルバインローズ・ビレッジ（兵庫県篠山市）

第4日目8月30日（土）

総括

木川田 一榮 教授



まずはストーリーテリングを実施しました。今まであまり話していなかった者同士でグループを作り、この合宿でどういうことを学び、気付いたのかを3分間で語りあいました。それを3回グループを変えて行いました。ここでは物語を通じて、「経験を共有」することがなりたいです。同じ物語を繰り返し話すことで、よりわかりやすく話を伝えることができました。今後魅力的なリーダーになるためにどのような行動をとれば良いかアクションプランを考えました。グループごとにそれぞれのスローガンや約束事を発表しました。

エンディング

株式会社リンクアンドモチベーション

4日間を通して、19名の中から3つのリーダー像に当てはまる人物を投票し、表彰しました。最後に、4日間の振り返りムービーを見て、全体のプログラムは終了となりました。



参加職員からひとこと

★研修2日目位までは父親が子供を見るという視点から離れる事ができませんでしたが、昨日あたりから皆さんを一人の個人としてみようという思いに変わっていきました。これからの自分を磨いて応用力のある人になられることを期待しています。

★声の大きさ、体から発する自信など成長している皆さんが嬉しいです。また、自分自身もプラスとなっていること実感しています。次回のような成長をする楽しみです。

★これからの長い人生には幾つかの転機が待っていると思います。今回のプログラムでの経験を役立ててください。変化を恐れず、積極型の人間に。

★今回のプログラムで得られた、様々な知見をきっかけとして、“阪大スタイルのリーダー”を目指して頑張れ！

★この学生支援GPに参加いただきありがとうございました。ここで知り得たことを元に、大きく羽ばたいてください。たくさんの友にも語り広げてください。

★何事にも積極的に熱心に取り組んでいた姿に感心しました。今回のプログラムに参加した経験を今後の学生生活に活かしてください。

★さすがに阪大生は優秀だなあと、改めて頼もしく感じました。これからの活動がすごく楽しみです。期待しています。

★学生の皆さんがこの研修に積極的に、かつチームワークよく取り組んでいたことに感心しました。ここで得た経験を実感し、自己を磨いていってください。

「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラム合宿研修レポート

プログラムテーマ

「市民社会変革型リーダーの使命と役割（市民社会でのリーダーとしての志（Aspiration）・信念（Belief）・コミットメント（Commitment）の形成と実践）」
3 年次ということで、実践をしていくうえで必要とされる抛り所となる揺るがない「こころざし」の形成をテーマとしています。



第1日目9月24日（水）

オリエンテーション

大和谷 厚 教授・学生部



学生部キャリア支援課の松本課長が開会の言葉と事務連絡、4 日間の実施スケジュール、スタッフ紹介を行いました。また、大和谷先生が今回のプログラムの実施背景、目的、今後の取組などを説明し、大学が提供するしっかりとしたプログラムであることを伝えました。

自己紹介ワーク

株式会社リンクアンドモチベーション

紙に自分自身を漢字一文字で表現し、それを使って自己紹介をしました。初めて顔を合わせる参加者同士の交流を図りました。

チームビルディング

株式会社リンクアンドモチベーション

☆チーム名決定

チームの一体感をより深める目的で、チーム内の共通点や4 日間を通して大切にしたいことなどを議論してグループごとにチーム名を決定しました。決定したチーム名を、経緯を踏まえながら約3 分で発表しました。

☆キョロッパチを創れ！

グループ6 人がそれぞれ異方向から見た設計図を持って、お互い口頭のみで説明により、ブロックで舟（キョロッパチ）を完成させるグループ対抗ワークを実施しました。6 0 分という限られた時間で、グループとしての目標時間、どう進めていくかを事前に考え、結果の振り返りを行いました。多くのチームが失敗を恐れて、設計図を完璧に理解するまでブロックを取りに行こうとしませんでした。失敗を恐れず走りながら考えること、失敗をしながら学んでいくことの大切さを学びました。ここでは、異なった視点からどうやってイメージを共有していくか、また相手に伝えることと相手の話を聞くことの重要性を伝えました。



第2日目9月25日（木）

問うことと考えること

望月 太郎 教授

問いの種類について説明を受け、「問われたことに対して真っ直ぐに答えること」を前提に、クリティカルシンキング（批判的思考）をペアワーク、グループワークで実践しました。何度も試みる中で、問いを問うことによって問題を明確にし、批判的に考えるということとは「自分自身から離れる」ということであり「自己主張」するということではないことを最終的に学びました。ここでは、いかに普段相手の問いに答えられていないかを実感し、コミュニケーションの原点を考えました。



共鳴のリーダーシップ

野村 美明 教授



グループのメンバーを一部いれかえて新たなグループを作り、その新グループにおいて、メンバーの共通点を探し出すというワークを行いました。また、「反論者とはどんな存在か？」などを定義づけて、反論者を弾圧してはいけない理由についてグループディスカッションを行いました。ここでは、コミュニケーション

を取る際に、相手と自分を共鳴させていく力を付けるワークを行い、共鳴とはどんな状態なのか、どんな前提があればスムーズにいくのかを考えました。

社会的要請に応えること

篠 雅廣 大阪市立美術館 館長

美術館を存続するための施策、美術館の役割等、阪神・淡路大震災の経験を交えた篠氏からのレクチャー後、社会の中で現存する美術館がどんな役割を果たすべきなのか、グループでディスカッションをしました。世の中において癒し、芸術、物事の真理など、人々に求められ必要とされる場所である「Museum」の存在意義を考えました。



総長ラウンド

驚田 清一 総長

総長が松下幸之助氏の逸話より「リーダー像」を説き、氏のいう「運がいい人」とは何を伝えなかったのかを学生同士で議論しました。そして、総長と価値観や見解を交換しながらリーダー像について議論し、様々な形のリーダー像を描きました。ここでは、組織はリーダーが言ったことに従って動くだけでは強く良い組織ではなく、一人一人が当事者意識を持っている組織が強く良い組織だということを学びました。



第3日目9月26日（金）

コミュニケーションワークショップ

平田 オリザ 教授

このワークショップではパントマイム風にキャッチボール、大縄跳びをしたり、台本をもとに役になりきり演技をしました。実際に身体を使って体感することで、イメージやコンテキストの共有の重要性を学びました。価値観が多様化する中で、大事なものは協調性ではなく社交性であり、いかに相手とコラボレーションしていくのが重要であると学びました。



二セ科学の練習

菊池 誠 教授

一見、科学であるかのように思われるが、実は科学とは呼べない二セ科学を題材とし、想像論科学（進化論否定）のレクチャーを受け、マイナスイオンや血液型性格判断などの二セ科学を紹介しました。ここでは、道徳の根拠を物理学に求めてはいけないこと、また科学的根拠のない事実をどう捉え、どう対応するのが大切だということを学びました。



生きることを考える

門田 守人 副学長

ドナーカードを実際に用いて、自分だったらどう記入するかを議論し、なかなか知られていない「脳死」についての理解を深めました。その後、生体移植の手術シーンの動画を用いて学生に説明し、医療現場のリアルな姿を伝えました。一方で、15 歳未満の子どもへの臓器移植（脳死）が認められていない日本の実態や世界からの見られ方についても議論しました。ここでは普段「志」や「未来」という「光」について考えがちであるが、いかに「死」を含めた「闇」について考えることが重要かを伝えました。また、医療現場の実情を知ること、プロ意識の高さを感じました。



アドバイスクランブル

株式会社リンクアンドモチベーション

3 日間一緒に過ごした同じグループのメンバーやアドバイザーから、それぞれの良かった点、改善点をメッセージにして、交換しあいました。ここでお互いのフィードバックを活かし、個人としての課題設定を明確にしました。



第4日目9月27日（土）

国政の場から：阪大OBとして

梅村 聡 参議院議員



現在参議院議員を務めておられる梅村氏は阪大 OB でもあり、以前医師をされていました。参議院議員を志した経緯や、現在の国の情勢、課題点、国の規模で日本を変えたいという意思などを伺いました。その上で、学生が抱えている疑問や主張をぶつけ、討論を交わしました。ここでは、当事者としての国民意識の重要性を学びました。

総括

木川田 一榮 教授

まずはストーリーテリングを実施しました。今まであまり話していなかった者同士でグループを作り、この合宿でどういうことを学び、気付いたのかを3 分間で語り合いました。それを3 回グループを変えて行いました。ここでは物語を通じて、「経験を共有」することがねらいです。同じ物語を繰り返し話すことで、よりわかりやすく話を伝えることができました。今後、魅力的なリーダーになるためにどのような行動をとれば良いか、アクションプランを考えました。グループごとにそれぞれのスローガンや約束事を発表しました。



エンディング

株式会社リンクアンドモチベーション

4 日間を通して、24 名の中から4 つのリーダー像に当てはまる人物を投票し、表彰しました。最後に、4 日間の振り返りムービーを流して、全体のプログラムは終了となりました。。

メンターからひとこと

吉田友祐さん 工学部・4 年次

★学生支援GP「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラムに参加したきっかけを教えてください。
2008 年の春に行われた本プログラムに参加し、非常に良い経験を得た。後輩たちにも自分同様の経験を得て欲しいし、何より自分自身が阪大を変えていく手伝いができることがうれしかったから。



★合宿研修に参加して何か変化はありましたか？
実際に後輩たちと接してみて、後輩たちが自分たちの置かれている状況をしっかり考えていると感じました。さまざまな人間が居る中でしっかりと阪大について考えている人が少しでも居ることを知り、大変うれしく思いました。

★合宿の講義・ワークショップで印象に残った講義は何ですか？
望月太郎先生の「問うことと考えること」

★あなたにとっての市民社会におけるリーダーシップとは？
周囲が自発的に行動できるように環境を整え、また必要ならば自ら先頭に立つことができる、いわゆるその状況で最適な選択をすることができ、最高の結果を残すことができる能力。

★学生支援GPプログラム参加後の活動内容を教えてください。
来年のいちょう祭で行われる予定のホームカミングデイに関して、学生との連携を強くできるように大学の事務局と連携しています。

★最後に一言お願いします。
非常に良い経験のできる貴重な場を提供していただき、ありがとうございました。



NOTICE 学生支援GPマスコットキャラクター 愛称募集！

学生支援GP「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」のマスコットキャラクターの愛称を募集しています。

自分をカエル、無事にカエル、カエルには色々な意味が込められています。

ステキな名前をお待ちしています。

応募について

- ・応募数に制限はありません。一人何点でも応募してください。
- ・学生部キャリア支援課 gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp までメールにて送信してください。
- ・応募締切は2009年1月16日（金）です。
- ・結果は次号にて発表予定です。

名前を考えてね☆



©

MESSAGE Let's Begin！～描いた未来を迎えに行く～

『描いた未来を迎えに行く』という阪大生による大阪大学のキャッチコピーに、ある新聞記事を思い起こしました。まさに20世紀が開けた1901年（明治34年）1月2日、3日の2日間に渡り報知新聞に掲載された「20世紀の預言」という特集記事です。「兎に角20世紀は奇異の時代なるべし」と結ばれていますが、100年前の明治の人たちの想像力の豊かさ、ものの考え方のおもしろさに驚きと同時に一種感動さえ覚えます。反面、現代に生きる我々にとっては既に古き時代の代物となったものもあると思います。それほどに20世紀後半の技術革新は、人間の想像を遙かに超えていたのかもしれない。

ひとくちに100年と云っても世代でみれば4世代を遡ることになります。ひいおじいさん、ひいおばあさんの世代です。翻って云えば、皆さんがこれから描くであろう未来、実現するであろうものを22世紀の曾孫の世代の人たちがどう見るんだろうと想像するだけでも何だかわくわくしてきます。思えば、わたしは宇宙飛行士になることを夢見る少年でしたが、叶わなかった私の夢のことはさておき、合宿研修会での最終日に私から皆さんへのメッセージに込めた思いに少しだけふれておきたいと思います。

“Let's Begin！”は、学生諸君へのメッセージということだけではなく、私自身への、そして学生部職員へのメッセージでもあります。学生支援GPによるこのプログラムの特徴のひとつに学生部職員の積極的関与ということがあります。学生部職員が学生支援の主体となるということを強く意識しています。「多様な学生に多様な支援」という大阪大学の学生支援の理念を実現するため、我々学生部職員一人ひとりもまた描いた未来を迎えに行くということを合言葉として学生諸君と一緒に新しい大阪大学を創造していきたいと思っています。“Let's Begin！”とにかく何かを始めよう！”

関 昭裕 学生部長



INFORMATION

「Kaeru 通信くりふ」では、リーダーシップに因んだ活動をしている方・団体の情報を募集しています。活動を多くの人に知ってもらいたいと思っている方！投稿をお待ちしています。

【お問い合わせ】

大阪大学学生部キャリア支援課キャリア支援第一係
gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp

NEXT ISSUE No.2

☆「総長ラウンド」レポート☆

1月10日（土）に開催される「総長ラウンド」の模様をお届けします。

☆THE KEY PERSON には木川田一榮教授が登場します。

☆マスコットキャラクターの愛称発表☆

次号発行日は2月6日（金）です。

EDITOR'S NOTE

☆この度、大阪大学学生支援GP「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」の活動報告及び、情報提供の場としてNews Letterを発行することとなりました。「Kaeru 通信くりふ」が皆さんの活動の場を広げるお手伝いが出来れば嬉しいと思います。今後とも学生支援GPをよろしくお願い致します。